

近畿ESDコンソーシアム・大阪府ユネスコ連絡協議会合同セミナー

地域社会全体で取り組むESD-SDGs

まるやまの自然と文化を守る会(近江八幡市)  
を通して考える

奈良教育大学 中澤 静男

## 1. 学校との連携のしかたについて

### (1) 学校の現状

- ・学校教育の学習内容のほとんどは、学習指導要領によって決められており、学校の裁量範囲は意外と少ない。(学校が独自に学習内容を決めることができるのは、総合的な学習の時間と特別活動(遠足・修学旅行・運動会などの学校行事、学級活動など)

### 学校が求める外部人材(例)

- ・1年生生活科:昔遊び名人
  - ・2年生生活科:畑づくり名人
  - ・3年生社会科:地元の農業・工業・商業に関わる方
  - ・4年生社会科:地元の開発に関わる方
  - ・5年生社会科:伝統工業にたずさわる方  
食料生産や林業にたずさわる方
  - ・6年生社会科:戦争・空襲体験者  
途上国で生活されていた方
- ◇総合的な学習
- 水生生物の専門家、水質調査の専門家、
  - ビオトープの管理運営に詳しい専門家
  - 外国人、あるいは外国語の指導ができる方

### 学校との連携のコペルニクスの転回

#### ◇これまでの学校との連携

地域が、「学校に役立つこと」「学校教育へ協力」  
できることを模索する

#### ◇これからの学校との連携

学校が地域に貢献できることを考え(子ども)、  
行動する

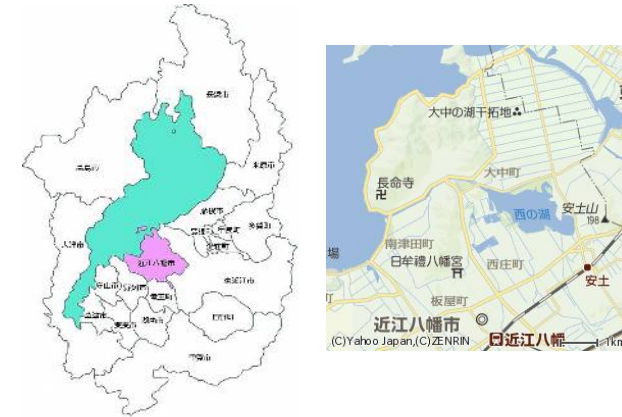
地域がよくなることで、子どもにいい影響が生まれ、  
教育的効果も大きい。

→地域社会全体で取り組むESD-SDGs

## 地域社会全体でESD-SDGsに取り組む条件

- ①活動を牽引する熱い人がいること(不東の信念)
- ②活動自体が楽しいものであること
- ③活動目的にニーズがあること
- ④地域の特性が活かされたものであること
- ⑤事業化を方策として位置づけていること
- ⑥多様な人、多様な年齢層が参加していること
- ⑦特に女性が活躍していること

## 近江八幡市円山地区



## まるやまの自然と文化を守る会

### (1)円山地区の現状(課題)

- ヨシの需要が減ったことや、中国等海外から安いヨシが輸入されたことで、ヨシ産業が衰退。
- このままでは「ヨシ地」の管理が不十分となり、ヨシと水郷に囲まれた豊かな自然環境が損なわれる。
- ヨシ産業の後継者がいなくなり、廃業する事業所が増える(雇用の縮小)
- 地域住民の高齢化・若者の流出による過疎化
- 長年続いてきた文化的行事も維持できなくなる

## まるやまの自然と文化を守る会

- ヨシネットワーク
- 円山町自治会
- (株)日吉、(株)琵琶湖汽船、(株)水郷のさとまるやま
- 西川嘉右衛門商店(ヨシ産業)
- びわ湖守山・自転車新文化協議会
- 近江八幡市観光物産協会
- 近江八幡市文化観光課
- 近江八幡市内小学校
- 立命館大学
- 近畿ESDコンソーシアム(奈良教育大学)







## 地域社会全体でESD-SDGsに取り組む条件

- ①活動を牽引する熱い人がいること(不束の信念)
- ②活動自体が楽しいものであること
- ③活動目的にニーズがあること
- ④地域の特性が活かされたものであること
- ⑤事業化を方策として位置づけていること
- ⑥多様な人、多様な年齢層が参加していること
- ⑦特に女性が活躍していること